

第1学年5組 音楽科 学習指導案

令和5年7月5日(水)第2校時

指導学級 1年5組(生徒38名)

授業会場 第一音楽室(5階)

指導者 有村 ひづち

1 題材名 クラスの合唱曲をよりよいものにしよう

2 題材の目標

①クラスの合唱をよりよくするために、音楽的な見方働かせ方を鍛えて、音楽活動につなげる。

②入退場など舞台に立ち、人前が出るうえでの所作を学ぶ。

3 主題設定の理由

クラス合唱曲を完成するにあたって、まず各パートの音程を把握してから、音楽記号や歌詞の特徴や曲想などについてパート内で議論し、全体で共有し、演奏にいかしてみる。録音機器などICT機器を活用することで、その工夫した演奏がどのように観衆に聞こえるか、を考え、本番を想定した練習を行う。今回は、合唱練習の4時間目であり、パートごとの音程が覚えることができきたあたりである。無意識で歌っていた部分を、意識的にどのように演奏するかを議論し考えることが今回の課題である。また、ホールでの演奏を想定した入退場についても学び、合唱祭本番、ひいては今後登壇する際の所作を身に付けるための基礎を培う時間にする。

4 教材について




内容中学校校歌「白いノート」 学年合唱曲「ぼくはぼく」 クラス合唱曲「Believe」

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 「Believe」に用いられている音楽的要素の特徴と、内容との関わりを理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で「Believe」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p>	<p>思 「Believe」の旋律、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「Believe」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図を持っている。</p>	<p>態 「Believe」の歌詞や曲想が表す内容及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

6 題材の指導と評価の計画(6時間扱い)

時	■ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1	<p>■クラス合唱曲のパートの音を聴いてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声+校歌(常時活動) ○学年合唱曲「ぼくはぼく」練習 ○学年合唱曲「ぼくはぼく」合わせ ○クラス合唱曲パートで聴く 	<p>技</p> <p>〈歌唱・観察・ワークシート〉</p> <p>知</p>		<p>態</p> <p>〈歌唱・観察・ワークシート〉</p>
2	<p>■クラス合唱曲のパートの音を覚えて歌えるようにしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声+校歌(常時活動) ○学年合唱曲「ぼくはぼく」練習 ○学年合唱曲「ぼくはぼく」合わせ ○クラス合唱曲「Believe」 	<p>〈歌唱・観察・ワークシート〉</p>		<p>〈歌唱・観察・ワークシート〉</p>

3	<p>■クラス合唱曲のパートの音を覚え、全体で合わせてつられないように歌おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声+校歌（常時活動） ○クラス合唱曲「Believe」練習 ○クラス合唱曲「Believe」合わせ <p>※2時間目か3時間目で期末テストの返却と振り返りを行う。</p>	<p>技</p> <p>知</p> <p>〈歌唱・観察・ワークシート〉</p>		<p>態</p> <p>〈歌唱・観察・ワークシート〉</p>
4 (本時)	<p>■クラス合唱をよりよくするための方策を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声+校歌（常時活動） ○クラス合唱曲「Believe」練習 ○パート内で付箋を使って意識したい点を全員から集約する ○パート内でよかったものをピックアップして演奏する ○入退場などについて確認を行う。 	<p>〈歌唱・観察・ワークシート〉</p>	<p>思</p> <p>〈歌唱・観察・ワークシート〉</p>	<p>〈歌唱・観察・ワークシート〉</p>
5	<p>■ICTを使用して、クラスの合唱を見つめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パート練習などで ICT を活用し、録音機能にて自分たちの歌唱を録音、視聴する。 ○視聴した内容をいかして、練習に取り組む ○リハーサルについても言及する（クラスによってはリハーサルの後） 		<p>〈歌唱・観察・ワークシート〉</p>	
6	<p>■本番を想定して歌唱をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入退場を意識しながら本番の練習を行う ○細かい音程など教員が確認した方がよい箇所はパートを取り出してピアノと一緒に練習をする。 			

7 本時の指導

① 本時のねらい

(ア) クラスの合唱をよりよくするために、音楽的な見方働かせ方を鍛えて、音楽活動につなげる。

(イ) 入退場など舞台に立ち、人前に入るうえでの所作を学ぶ。

② 本時の展開

過程	学習活動	学習内容（・）	指導上の留意点（○） 評価規準（◇）
導入 (15分)	発声（常時活動） ・声帯を合わせる練習 ・腹筋を鍛える練習 校歌		○新型コロナウイルスの感染状況によってはマスクをつけて歌唱する
展開 (30分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> クラス合唱をよりよくするための方策を考えよう </div>		
	クラス合唱曲「Believe」のパート練習を行う。 ワークシートと付箋を使って注意点を纏める。 ○強弱記号や速度記号、歌詞の意味などに着目しながら歌い方を考える。 ①個人で考える時間を取る。 TPCを使用してわからない記号などを調べる。 【TPC】 【予想される生徒の気づき】例 9小節目「たとえば君が」におけるmp Bでのmfの必要性 フレーズ終わりが二部音符になっているところ 鼻濁音 合唱における主旋律の場所 I believe in future 英語のイントネーション F FFの必要性 65小節目のデクレッシェンド ②パートで共有してまとめる。【じ・し・ゃ・く】 ・パートリーダーを中心に パート内で改善点等を集約する 全体で確認を行う。他パートでよかったものを自分たちのパートなどにいかす ホールを想定した入退場の確認を行う。 小学校の音楽会との違いを踏まえる【小中一貫】	強弱記号などはなぜそのような指示がつけられたかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>付箋 個人で考える時間で、自分の考えを書き出す</p> <p>ワークシート 自分の考えを書き出す+パートで共有したときに他の人の考えも書きとめておく</p> </div> <p>【優先順位】 強弱記号 主旋律 フレーズ終わりの二部音符 英語のイントネーション・鼻濁音</p> <p>左の気づきで、生徒から出てこなかった場合は教員からヒントを出し、導き出す。→放課後練習につなげる</p> <p>◇付箋・ワークシート（知・思・態） 「Believe」の旋律、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができている。 ◇発言・歌唱（技・思・態） ◇ワークシート（技・思・態）</p>	
まとめ (5分)	今回の授業で学んだ入退場方法や、歌唱の際に気を付けることをワークシートにまとめる。		◇ワークシート（技・思・態）